



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年02月21日 第1057号「週刊五十嵐レポート」

子孫へ宛てた家訓

日々ウクライナ情勢が伝わってくる。ロシアによるウクライナ侵攻の恐れが高まっている。ウクライナ東部では住民をロシア領に避難させる動きが活発化、緊迫の度が増している。

日経新聞夕刊の小説は「諸葛亮」。三国志に登場する蜀の軍師諸葛亮孔明の話。少年時代、世は乱れ、戦乱の中、住む場所を離れなければならなくなった。諸葛家は男子3人、諸葛亮は次男。次男が三男へ、「この家が絶えないように上の兄上は別れて生きる道を選んだ。だが、上の兄とこの兄が、途上でたおれることがあるかもしれない。そのときは、そなたが死体にとりすがってなくことはやめて、まえにすすむのだ」といいかさせた。

生きる。血筋を絶やさない。企業で言えば、どんな非常事態になろうと存続しなければならない。そのために何が必要なのか。

現在の中国浙江省蘭溪市に諸葛亮孔明の子孫が開いた「諸葛八卦(はっけ)村」がある。人口約3千人の村で、8割近くが諸葛姓。家系図に記された子孫は現在約1万3千人。中国だけでなく、欧米や東南アジア、日本など世界中にいる。諸葛亮が重視し、後世に残そうと考えたのはお金や土地ではなく、教育だった。子孫へ宛てた家訓「誠子(かいし)書」。(20年9月15日付朝日新聞「わたしの三国志」より)

優れた人は、静かに身を修め、儉約をして徳を養う。無欲でなければ、志を明らかにすることが出来ず、身が安らかに治まっていなければ、高遠な目的を達成することは叶わない。静かな心から学ぼうとする意欲が生じ、学ぶことから才能は発揮される。学ばなければ才能は開花せず、学ぼうとする志が無ければ物事を悟ることも出来なくなる。少し知識を付けた程度で傲慢になれば勤勉勤労から遠ざかり、いつも心が陰しく騒がしければ自分自身を見失ってしまう。齢を重ねるに連れて学ぶ意欲も無くなり、次第に、落ちぶれて世の中で己を発揮できなくなる。そのときになって、嘆き悲しんでも遅いのだ。(「誠子書」より)

存続の秘訣は、志と学び。金や土地は奪われるが、志と学びは奪われない。

ちょっと
気になる出来事

2月9日付日経新聞、「筋トレは人生のマネジメント」という記事。

コロナ禍でテレワークが増え、行動様式の変化による身体活動量の減少、肥満による生活習慣病のリスクが増大。予防のためにもフィットネスの重要性が高まる。

そこで筋トレ。筋トレは継続すれば必ず成果が出る運動。筋肉が増えると基礎代謝が高まり脂肪がつきにくくなる。ストレス改善や自己肯定感を得やすくなる作用があると言われている。

筋トレを日課にしている経営者が少なくない。日々の体のマネジメントが自分自身だけでなく、組織のパフォーマンスの維持・向上にも直結すると捉えている。

筋肉には定年はない。筋トレをいつ始めても遅いということはない。日常生活で習慣化することで得られるリターンは計り知れない。筋トレはまさに人生のマネジメント。

私はヨガをはじめて4年。ランニングは1年。180度開脚ができるようになり、10キロを10代時代より速く走れる。確かに筋肉に定年はない。



一口メモ
知識

固定観念を捨てる

剛柔(ごうじゅう) 相易(あいか) わり、典要(てんよう) となすべからず、ただ変(へん) の適(ゆ) くところのままなり。

「剛柔」は陰陽。「典要」は常なる約束事、常の規則。陰陽は常一定でなく、時に転化するものである。ある時は良いとされるものが、ある時は悪いとされる。

だから物事の変化動向は正しく見極めるには、まず一度、良し悪しの固定観念を捨てて、混沌とした変化をそのまま見つめることが大切なのである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

榎五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

